

令和7年度「実施計画 兼 まちづくり達成状況報告書」（事務事業点検シート）

課等名： 保健推進課 シート No.： 22 作成日： 2026.9/16

① 総合計画上の位置付けと事務事業の背景・目的と目標

後期基本計画	施策の大綱	Ⅱ 保健・医療・福祉の充実	事務事業の背景・目的	事務事業の目標
	施策の目標	2 市民が相互に支え合う福祉を進める	核家族化や外国籍妊婦の増加などの理由で妊娠や出産に際して、近くに相談や手助けしてくれる人がいないというケースが年々増えてきており、支援者不足が深刻な問題になっています。 またメンタル面でも、不安を抱いたまま妊娠期を過ごし出産を迎えてしまうと、産後の心身の体調の不安定さや育児に影響する恐れもあります。	妊産婦の不安軽減のため、妊娠届出後の妊婦面談等の妊婦包括相談支援を行い、妊娠期から出産に向けての流れや準備など先の見通しを一緒に考えていけるよう寄り添った支援を行います。 また、産前産後のサービスの充実を図り、サービスの利用促進に向けた周知に努めます。
	施策	2 少子化対策・子育て支援		
	施策内容	妊娠・出産支援の充実		
	その他、根拠法令及び分野別計画等	母子保健法・児童福祉法 常総市子ども子育て支援事業計画・健康プランじょうそう		
事務事業名		妊産婦健診事業		

② アクティビティ（活動・事業）とアウトプット（結果）

③ インプット（投入）

アクティビティ（活動・事業）		アウトプット（結果）			R 7 予算額	R 7 決算額
活動名・事業名 （対象年）	R 7 活動・事業内容	指標（単位）	R 7 目標値	R 8 目標値		
			R 7 実績値	R 9 目標値		
プレパパ・ママ教室 （R7・8・9）	妊娠・出産について学ぶ日曜日開催の教室です。希望者は夫の妊婦体験や沐浴疑似体験もできます。	のべ参加者数（人）	130	140	1, 927 （会計年度任用職員報酬の内数） 千円	1, 337 （会計年度任用職員報酬の内数） 千円
			125	150		
母子モによる情報発信 （R7・8・9）	育児情報や感染症情報など随時発信しています。	登録者数（人）	1, 000	1, 100	660 千円	660 千円
			1, 043	1, 200		
妊婦健診 （R7・8・9）	妊娠期の定期健診の費用を 16 回助成しています。また多胎妊婦の方には、最大 21 回まで費用の一部を助成します。	のべ受診者数（人）	3, 310	3, 310	36, 352 （負担金分は内数） 千円	31, 969 （負担金分は内数） 千円
			3, 351	3, 310		
産婦健診 （R7・8・9）	出産後に 2 週間、1 か月を目安に受ける産婦健診の費用の一部を助成しています。	のべ受診者数（人）	490	490	2, 900 （負担金分は内数） 千円	2, 414 千円
			483	490		
要支援妊婦の継続支援活動 （R7・8・9）	要支援妊婦の方について継続的にかかわり必要時には関係機関と連携を図りながら支援していきます。	課内ケース検討会開催（回）	12	12	0 千円	0 千円
			8	12		
妊婦等包括相談支援事業 （R7・8・9）	妊娠届出後の妊婦を対象に、保健師が面談を実施し安心して出産・子育てができるように継続した支援を行います。	初回面談者数（人）	266	R8 妊娠届出数	0 千円	0 千円
			329【転入者含む】	R9 妊娠届出数		
産後ケア事業 （R7・8・9）	産後ケアを希望する産後 1 年未満の母が産後ケア施設でショートステイ・デイサービスを受けられる事業です。	のべ利用者数（人）	35	40	2, 390 千円	2, 579 千円
			62	45		
子育て応援給付金事業 （R7）	常総市に住民登録がある 0、1、2 歳児を養育している保護者に子育て用品購入のため年間最大 36, 000 円給付します。	給付金交付者（人）	900	-	32, 739 千円	23, 172 千円
			759	-		
こんにちは赤ちゃん事業 （R7・8・9）	生後 4 か月までに（通常 1 か月～1 か月半頃）保健師が訪問し赤ちゃんの発育状態や育児相談を実施しています。	訪問人数（人）	217	R8 の出生人数	165 千円	75 千円
			270	R9 の出生人数		
					千円	千円

④ アウトカム（成果）

指標名	目標値	R 7 実績値
「産後 1 か月以内に十分なケアを受けられた」割合	98%	91%
産後ケア利用希望者のうち利用につながった割合	100%	100%

⑤ 点検・改善

業務の振り返り	改善の余地			
妊娠期からの継続的な関わりのきっかけである妊婦面談については、10 月より本庁でも可能となり面談を受けやすい体制を整えました。転入者を含め、多くの妊婦と直接面談することで、妊娠出産に対して不安を抱えているケースをいち早く把握し、月 1 回の検討会で情報共有することで、早期に対応できるような支援体制を築いています。また、プレパパ・ママ教室は昨年度の休日開催が好評でしたので、今年度は全日休日開催（平日個別対応可）としました。 産後ケア事業については、年々希望者が増えております。	☐ コスト	☒ 活動	☐ 成果	☐ その他
	今後の方向性			
	今後も妊娠期からの関わりを大事にし、妊婦が安心して妊娠期から子育て期までを過ごせるような体制づくりをします。 産後ケア事業につきましては、希望する方がスムーズに利用できるよう医療機関等との連携を強化し、内容についても多様な希望に添えるよう拡充を目指します。			